

豊子愷の書

呉 鴻春

随分前になりますが、日本開發銀行で中国語を教えたことがあります。私は日本に来たばかりで、NHK中国語講座の講師であった榎本英雄先生から紹介された仕事でした。榎本先生はかつて、私の母校に客員研究者として来られ、その関係でお世話になったのです。第一回の授業の時、受講者の中にどう見てもお年が還暦をこえた方がおり、不思議に思いました。授業後、この方が私をお茶に誘ってくれ、それが私が木村昌一さんを知ったきっかけでした。

木村さんは当時すでに退職されており、中国語も相当のレベルでしたが、それでも毎週一回の授業に、わざわざ鎌倉から出て来られました。謙虚な態度で、小柄でやせ型、とてもかたつて中国戦線で兵隊として戦ったとは想像できません。敗戦後、船で帰国する際の荷物検査で、中国軍の大尉がその荷物の中に「唐詩三百首」を発見、にっこり笑って通過を許可したそうです。帰国後、木村さんは学籍を回復し、東京大学を卒業しました。

当時、彼は、豊子愷の散文集「縁縁堂隨筆」を翻訳していました。彼は、吉川幸次郎翻訳の豊子愷の散文を読んで、非常に魅かれたのですが、吉川が十三篇しか翻訳していませんでした。彼は、吉川幸次郎翻訳の豊子愷の散文を読んで、吉川の豊子愷に対する評価は非常に高く、「私は現代支那における最も芸術家らしい芸術家だと思う。……上海派の文人の中で、著者の姿は、鶏群の一鶴のような気がする」と述べています。縁縁堂は豊子愷の故郷、浙江桐郷に建つ住居でしたが、後に戦火により破壊。ある時、私は新聞でその縁縁堂修復のニュースを読み、木村さんに伝えました。翌年、彼は夫人とともに桐郷を訪問し、そこで豊家の子孫と知り合いになったのです。

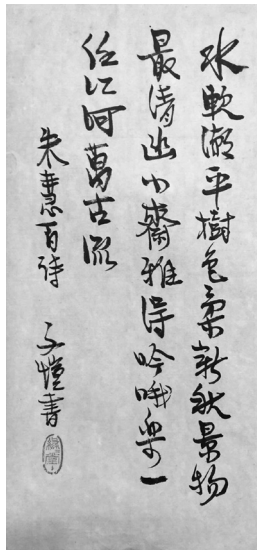
一九二〇年代以降、豊子愷の「子愷漫画」は中国文化界において独特の風格を持ち、知らない人がないほどでした。

彼の「漫画」は、「北斎漫画」の序言に言う「漫然と描かれた絵」と同じ意味です。「子愷漫画」の素材について、彼の師である夏丐尊はこれを二種類にまとめ、一つは、古人の詩や詞の名句、一つは日常生活の断片としています。一九二一年、豊子愷は東京に留学、十か月ほど絵画や音楽を学び、竹久夢二に傾倒しました。また、豊子愷は日本文学の翻訳でも大きな貢献がありました。「源氏物語」の初めての完全な中国語訳は彼が翻訳したものです。

木村さんは、結局その翻訳を出版することはありませんでしたが、彼の書いた一篇の随筆は、中国の豊子愷記念文集に掲載されました。

さて、二十年以上前、私は、見慣れた住所だが筆跡に見覚えのない手紙を受け取り、嫌な予感に襲われました。木村夫人からの計報でした。同時に、ご夫婦で縁縁室を訪ねた時、豊家から豊子愷の書を贈られたが、木村さんの遺言により、それを私に贈りたいと書いてありました。それから数日後、夫人は大きな封筒で、豊子愷の書を送ってこられました。

水軟潮平樹色柔、新秋景物最清幽。小斎雅得吟哦樂、
一任江河万古流。 朱慧百詩 子愷書



朱慧百とは、上海の、書画の素養で名高い妓女で、豊子愷の師であった李叔同（弘一法師）が若いころ、詩酒の交わりがありました。その後、李叔同は浙江第一師範学校に招かれ、豊子愷は彼の愛弟子となります。一九一八年、李叔同は杭州の定慧寺で出家しますが、剃髪の数日前、それまでの作品を一巻に手書きでまとめ、豊子愷に「形見にしなさい」と授けたものです。この書には日付の記載がありませんが、彼がこれによって弘一法師を懐かしむ思いを表したのは間違いないです。

三十数年前、私が中国語を教える仕事の最初に木村さんと知己になり、また今、私がまもなく退職生活に入る時に、木村さんから贈られた書の話題でこの小文を書く。これも、いわゆる人生の縁ということかもしれません。